令和５年度

授業改善プラン

大田区立矢口東小学校

令和５年度　学力向上を図るための全体計画

大田区立矢口東小学校

○日本国憲法
○教育基本法
○学校教育法
○小学校学習指導要領
○小学校設置基準
○東京都教育目標
○大田区教育目標　等

大田区立矢口東小学校教育目標

人間尊重の精神を基調とし、心身ともに健康で、意欲を持って主体的、創造的に取り組む児童の育成を目指し、次の目標の達成に努める。
◎自ら学ぶ子　○心豊かな子　○たくましい子　（◎重点目標）

○学校、地域の実態
○地域の期待や願い
○保護者の期待や願い
○期待される児童像

各教科の指導の重点

●国語
言葉の学習を中心に言語感覚を養い、適切に表現する力を育てる。文章を読んで内容を理解する力を育てる

●社会
社会事象に関心をもたせ、資料活用力の向上と知識理解の確実な定着を図る。

●算数
基礎的な計算能力を確実に身に付ける。習熟度別少人数学習を通して数学的な見方・考え方を育てる。

●理科
科学的な見方や考え方を養うために予想や仮説を立てて学習する。

●生活
身近な人々、社会、自然に関心を持ち見たもの、気付いたものを絵や文章で表したり、言葉で伝えたりする。

●音楽
音楽に対する興味・関心を高め、音楽を愛好する心を育てる。

●図画工作
個性を生かした創造的な造形活動ができる基礎力の育成を図る。

●家庭
生活を工夫しようとする実践的な態度の育成を図る。

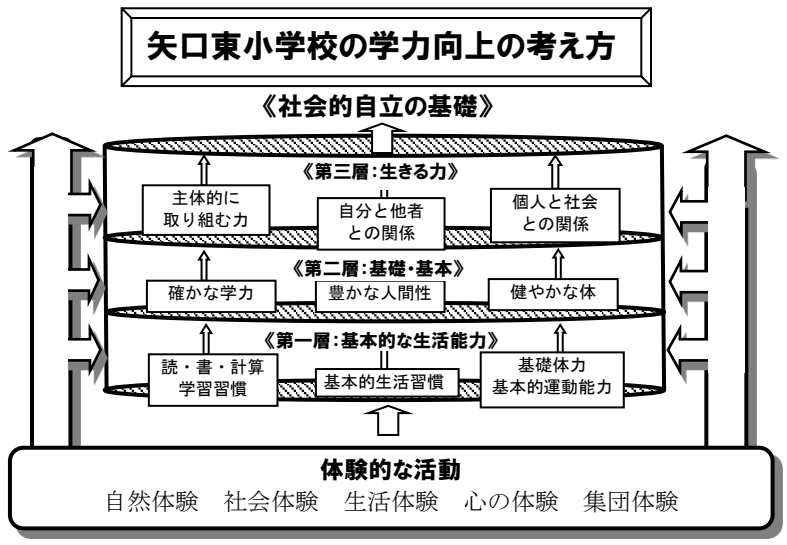
●体育
様々な運動をバランスよく取り組み、健康の維持・増進を目指す。

学校経営の基本方針

◎自ら学ぶ子（令和５年度重点目標）の達成のために、学力向上だけでなく、自己解決力（問題を解く手立てが考えられる子）及び意欲（言う気、やる気、確かめる気）を高める。

本校における学力向上のための基本方針

○習熟度別指導（算数）を少人数によるグループ指導（レディネステストによる習熟状況に応じたコース分け）で行う。希望制による指導を原則として児童一人ひとりの実態に即して担任、学年、少人数担当が協議し、児童に確認をしてコース分けし、適切な指導をする。
○タブレット端末で学習用コンテンツ等を利用して、授業で活用するとともに、家庭学習にも使うことで、家庭と連携した学習習慣づくりをすすめる。
○東京ベーシックドリル（算数）を活用して卒業までに全員が４年生までの学力を身に付ける。目標達成のために、確認シートをもとに土曜日を含めた補習教室や夏季休業中に必要に応じて各児童に復習プリントなどを課題として提供していく。
○区教研の研究授業等に積極的に参加し、授業の指導法の工夫・改善に努め、授業力の向上を図る。



【知育】学習規律や基礎的・基本的な知識・技能の定着により、きめ細やかな指導を行う。学力向上だけでなく、自己解決力及び意欲的を高めることで『自ら学ぶ子』を育てる。
【徳育】学級経営・専科経営・保健室経営の基本である子ども一人一人の理解に努める。また、学校の教育活動全体を通して、心の教育や人権教育の充実を図り、『心豊かな子』の育成を進める。
【体育】健康・安全教育や保健指導の徹底を図る。体力・健康意識の向上を地域・保護者と連携し広めていく。体育では健康づくりや体力づくりを効果的に取り入れ、授業改善を図るとともに、『たくましい子』の育成に努める。
【体験的な活動】地域の資源や人材を積極的に学習に活用し、ものづくり教育や体験学習を一層充実させ、児童が実際に見たり、触れたり、感じたりする機会を意図的に計画する。

外国語活動の重点

・コミュニケーション能力の伸長

総合的な学習の時間の指導の重点

・自ら学習課題を見付け解決する態度の育成
・探求型の学習活動の推進

道徳教育指導の重点

・基本的生活習慣
・豊かな心の育成
・生きる力の育成
・道徳的実践力の定着

特別活動の指導の重点

・代表委員会、委員会活動クラブ活動の充実
・教科・領域等との関連
・児童による学校行事の企画立案
・異年齢集団での交流

生活指導の重点

・矢東スタンダード（学習スタンダードと含めて）の確立
・あいさつ、思いやり、感謝奉仕、早寝・早起き朝ごはん
・安心、安全の徹底
・避難訓練の実施

キャリア教育の推進

新たな教科「未来科」を見据えた研究をすすめる。その中で指導の系統性を意識した授業を行っていく。

矢口東小学校の授業改善に向けた視点

個に応じた指導体制	学習習慣の確立	基礎・基本の確実な定着	授業の質の向上	授業時数の確保	評価活動の工夫
○支援員や補助員等を活用し、複数指導体制の整備を図る。 ○算数科での全学年習熟度別少人数指導 ○専科教員による指導	○学習スタンダードと「家庭学習のすすめ」の徹底 ○早寝・早起き・朝ごはん月間と子どもの心サポート月間の取り組み	○東京ベーシックドリルとステップ学習による繰り返し学習と反復練習 ○補習教室（放課後１０回　土曜６回） ○授業補助　１０８時間 ○学習カウンセリング実施	○外部人材の活用による問題解決学習と体験的な学習の充実 ○授業観察時に授業を公開し、教員相互が指導法の工夫・改善に努める。	○振替を設けない土曜授業の実施（年９回）	○授業改善推進プランの検証 ○全児童、全家庭を対象とした評価の実施と活用

【令和５年度矢口東小学校授業改善推進プラン】

国語科における令和４年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

・国語に対する関心が高まるように、朝の読書の時間を設け、継続して行ったことで、本に親しむ児童が増えた。

・「書くって楽しいね」を活用して練習したり、メモや付箋を用いて自分の考えを明確にして文章を書いたりすることに取り組ませ、文章構成を考えたり、表現を工夫したりしながら書く力を付けさせてきた。自分の思いや考えを伝える文章が書けるようになるまで、今後も指導を重ねていく必要がある。

・要旨を捉え、自分の考えを明確にしながら読む練習を重ねることで、物語や説明文の内容を読み取る力が身に付いてきている。

国語科における観点別の分析

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
観点別結果の分析	・５年生と６年生は目標値を上回ったが、４年生は目標値を下回った。 ・漢字の読み書きは、どの学年も目標値を上回ってる。 ・言語の特徴を理解し、活用する力を付けることが課題である。	・５年生と６年生は目標値を上回ったが、４年生は目標値を下回った。 ・文章を読み取る力は、目標値とほぼ同等か上回っている。 ・書く力を付けることが今後の課題である。	・５年生と６年生は目標値を上回ったが、４年生は下回った。 ・４年生は、テストの形式に慣れておらず、時間内に最後まで問題を解くことができなかった児童の多くが無答となり、ポイントが下がった。

授業改善のポイント

知識・技能

言葉の習得率を高め、語句と語句との関係、話や文章の構成を意識させ、作文等で活用させていく。

思考力・判断力・表現力

段落構成を考えたり、自分の意見とその理由を区別したりしながら書く活動を意図的に取り入れる。

主体的に学習に取り組む態度

日常的に読書に親しむことで、初見の文章への抵抗感をなくしていく。

授業改善策

知識・技能

低　：長音、拗音、促音、発音などの表記、助詞の「は、を、へ」、かぎの使い方を理解させ、文や文章の中で使わせていく。

中・高：関心をもった言葉の意味や使い方を、国語辞典や漢字辞典で調べ、活用することにより、語彙を増やす。

主語、述語、修飾語の関係などを繰り返し指導し、理解を深める。

思考力・判断力・表現力

全学年：「書くって楽しいね」を用いて、文章構成の力を付けていく。また、振り返りや短作文、観察記録、語句調べなどを通して、日常的に書く活動を取り入れていく。

低　：行事や生活科とも関連させ、自分の思いを伝える楽しさを感じさせながら取り組ませる。

中　：自分の考えやその理由・根拠を明確にして書かせる。理由の場合は「なぜかというと～からです。」「その理由は～です。」等、話型を示して表現の仕方を指導する。

高　：国語に限らず、様々な場面で書いて表現する活動を取り入れる。また、段落構成を考えながら書くことにも慣れさせる。学んだ効果的な表現方法を作文の中ですすんで使わせていく。

主体的に学習に取り組む態度

全学年：現在行っている図書ボランティアによる読み聞かせや矢東タイムの朝の読書時間を今後も継続し、日常的に本に親しませていく。ブックトラックを利用し、各学年の教室前に置き、学習に関連した本に多く触れさせる。

低　：物語だけでなく、説明的な文章の本も楽しんで読もうとする態度を育てる。

中　：いろいろな種類の本に関心をもたせる。

高　：目的に応じて、本を選んで読ませる。

【令和５年度　矢口東小学校授業改善推進プラン】

社会科における前年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

１　知識・理解の技能を高めるために、八方位、都道府県、日本周辺国の名称と位置について、どの学年でも地球儀や地図を活用して知識の定着が図れるように、既習事項を振り返る時間を大切にした。また、習得させたい用語について復習する時間を取った。都道府県クイズや歴史かるたなどを活用して、児童が意欲的に学べる機会を増やしたことにより、目標値を上回った。

２　社会的な思考・判断・表現を高めるために、中学年では、見学に行ったことや実生活と学習したことを結び付ける学習の計画を立てたり、高学年では、複数の資料から読み取ったことを比べたり、関連付けたり、まとめるたりするという思考の流れを指導した。ＩＣＴを活用した学習として、タブレットでの調べ学習や教科書内容をスライドにまとめて児童同士で発表し合う形式で効果的だった。目標値には届かなかった。今年度引き続き課題としていく。

３　社会的事象への主体的に学習に取り組む態度を高めるために、自然と疑問をもつような資料提示に工夫をいれるなど、児童が関心・意欲をもてるように工夫した。ゲストティーチャーや外部の教育機関、企業の協力を得ることで、各学年共に目標値を上回った。

社会科における調査結果の分析

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点別結果分析	4 年生では、目標値を大きく下回った。特に「安全を守る働き」「区の様子の移り変わり」においての正答率が低い。5・6 年生では、目標を達成している。特に 5 年生での「自然災害からくらしを守る活動「特色ある地域の様子」での正答率が高かった。	5 年生では、目標値を上回っているが、4・6 年生では、僅かに下回った。5 年生では、資料を基に考えたり、判断したりする問題での正答率が高かった。一方 6 年生では、資料を基に考えたり、判断したりする問題の正答率が低く、学年差が見られた。	どの学年においても、目標値を上回った。4 年生では、四方位の理解を基に地図を読み取ったり、スーパーマーケットに見られる工夫について考えたりする問題の正答率が高かった。5 年生のおいては、「地域の産業の発展」、6 年生では「農業が抱える課題」で正答率が高かった。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

１　知識・技能について

・八方位や縮尺を正しく理解させるため、日常的に地図帳を活用し、地理に関する感覚を養う。

・資料を活用して調べる前に、問いについて予想したり話し合わせたりすることで、「予想を確かめるために必要な資料・情報」を明らかにし、資料活用力を高めていく。

２　思考・判断・表現について

・「変化している理由や二つの資料からいえること」について、小グループで話し合う場を設定し、複数の資料から読み取ったことを関連付けて考える力を育てる。

３　主体的に取り組む態度について

・単元の最初の授業で提示する資料を工夫して、単元を通して学習の問題を追究して解決したいという意欲を高める。

社会科の授業改善策

１　知識・技能を高めるために、ICT 機器を活用して，情報の収集やまとめなどを行うようにする。

事実等に関わる知識の習得や概念等に関わる知識の習得、事実や概念等 に関わる知識の再認識のためにタブレット端末等の ICT 機器を活用できる場面を設定していく。

２　思考・判断・表現を高めるために、グラフから変化を読み取り、その背景を考える学習を重視する。

グラフが示しているものは何か、どのように変化しているかを確実に読み取ることができるように、グラフの読み取りの視点などを具体的に指導する。また変化から背景にある社会的事象を資料やグラフ、生活経験等に照らし合わせながら、「思考・判断・表現」する学習を重視していく。

３　主体的に取り組む態度を育てるために、問題解決的な学習を重視する。

児童が自らか疑問をもち、主体的に調べていくことができる問題解決的な学習を進める。特に導入では、「あれ？」「どうして？」と思わせるような資料等を提示し、児童の興味や関心を高めたり、児童が探求すべき疑問を明確にしたりして、学習の見通しをもたせる。

【令和５年度矢口東小学校授業改善推進プラン】

算数科における令和４年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

成果　・図形の領域では円や三角形の作図を繰り返し練習したことで、図形の構成要素について理解が深まり基本的な図形の作図の正答率が目標値を上回った。

・数と計算の領域では、立式の際に絵や図を用いて、根拠を説明するように継続的に指導した結果、□を用いて解決する問題の正答率が目標値を上回った。

課題　・基本的な図形の作図は目標を達成できていたが、ひし形や平行四辺形などの特別な形の作図が目標値を大幅に下回った。(5年生)

・図形の領域では、図形の性質について理解を図るために、具体物を扱った活動を増やしたがどの学年でも図形に関する問題で目標値より下回る結果となった。(4、5、6年生)

算数科における調査結果の分析

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点別結果の分析	・第4学年は上回っている。基本的な四則計算が身に付いている。 ・第5学年は3ポイント下回っている。小数のたし算ひき算の正答率が低い。 ・第6学年は3ポイント上回っている。分数のたし算ひき算の正答率が高い。	・第4学年はほぼ目標値と同じ。□を使って問題を解くことができている。計算方法の理由を説明する問題は正答率が低い。 ・第5学年は目標値を2ポイント上回った。面積の計算方法の理由を説明する問題は目標値を上回っている。 ・第6学年は目標値を2ポイント上回った。図を読み取ったり説明したりする問題の正答率が高い。	・第4学年は目標値とほぼ等しい。 ・第5学年は目標値を2ポイント下回った。概数に直す問題やグラフを読み取る問題の正答率が低い。 ・第6学年は目標値を2ポイント上回った。資料から必要な資料を読み取って解決する問題の正答率が高い。

授業改善のポイント

〈低学年〉

・児童の定着度に合わせた計算問題を反復練習させる。

〈中学年〉

・図や数直線を使って問題を解決する活動を引き続き行う。どうしてそのような考え方になったのか言葉でまとめる活動も取り入れる。

〈高学年〉

・分数や小数の四則計算の問題に定期的に取り組んで復習する。分数や小数の要素が入った問題に取り組むときは分数や小数の性質について振り返る時間を設ける。

算数科の授業改善策

知識・技能を高めるために

・基本的な計算を反復練習させながら学習をすすめていく。高学年は小数や分数の計算を中心に取り組む。

・図形の領域では、図形の性質をまとめた掲示物を作成したり、導入の前に今まで学習してきた図形に関する復習をする時間を設定する。

・前学年までの習熟の定着を補習教室等で図り、その上で当該学年の習熟度を高めていく。

思考・判断・表現を高めるために

・ブロックなどの具体物を用いて、考える時間を十分にとることでその仕組みを理解させ、表現できるようにさせる。

・図形の領域では、図形の性質について理解を深めるために紙を折ったり、切ったりして問題を解決する活動を引き続き行う。今まで学習してきた図形のどの要素を使えば問題を解くことができるのか思い出したり、自分で選んだりする時間を設定する。

主体的に学習に取り組む態度を高めるために

・日常生活に関連付けた課題を提示したり、既習事項を意識させ、活用できるように掲示したりして、見通しをもたせるようにする。

・自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりする活動を通して、自分で新たな問題を発見したり、日常生活でも使ってみようとする態度を育てる。

・学習の振り返りでは、学習したことの中から自分が大切だと思うことを自分で考えたり、いくつかある中から選んだりして、自分の言葉でまとめるように指導する。

【令和５年度　矢口東小学校授業改善推進プラン】

理科における令和４年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

○昨年度に続いて、自然事象に親しむ素地をつくることを大切にしつつ、問題解決の学習を繰り返し行ったり、導入で問題意識や興味・関心を高める工夫を行ったりしてきた。教科の正答率において、昨年度は４～６年生のいずれも目標値を下回っていたが、本年度は５年生が目標値を上回った。本年度も取り組みを続けていく。

○どの学年も知識・技能の定着が不十分だった。各単元の終わりに学習したことの確認や復習を十分に行い、知識・技能を確実に身に付けることができるよう、指導していく必要がある。

○日々の生活の中で、教員自身がゆとりをもって自然事象に親しみ、理科（サイエンス）に対する理解を深めていくことが課題である。

理科における調査結果の分析

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点別　結果分析	○４～６年生のいずれも目標値を下回った。観察や実験を通して得られた内容を、実感を伴う確かな知識・技能として定着することが求められる。一人一実験（一人一教具）を基本とし、個人での実験器具の正しい操作など、体験を伴った指導を徹底していく。また、各単元の終わりに学習したことの確認や復習を十分に行っていく。	○５年生は５ポイント以上目標値を上回ったが、４年生と６年生は５ポイント以上目標値を下回った。観察や実験の結果を共有する際にタブレット端末を活用したり、実証性、客観性、再現性に代表される科学的アプローチの有効性を意識させたりするなどして、児童の思考力・判断力・表現力を高めていく必要がある。	○４～６年生のいずれも目標値を下回った。導入の工夫や問題解決の学習をより一層徹底していく必要がある。問題解決能力を高めることで、理科の学習を自分事としてとらえ、主体的に学習に取り組む態度が育つと考える。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

知識・技能
　実感を伴った理解ができるようにする。
思考力・判断力・表現力
　観察の様子や実験結果から考えたことを適切に表現し、伝えることができるようにする。
主体的に学習に取り組む態度
　理科の学習を日常の生活場面での事象と比較してとらえることができるようにする。

授業改善策

知識・技能

　一人一実験（一人一教具）を基本とし、観察・実験の時間を十分に確保することで、一人一人の知識・技能の定着を図る。また、ミニテストやパフォーマンステストを行ったり、学習した科学的用語を用いて自然・事物の現象について説明したりするなどして、知識・技能の定着を図る。

思考力・判断力・表現力

　実験結果から考察する過程に重点を置き、「結果から考えると、～ということがいえる」「ＡとＢの結果を比べると、～ということがいえる」など、事実（実験結果やデータ）を基に考えたり、推論したり、考察したことをわかりやすく表現したり場面を大切にする。

主体的に学習に取り組む態度

　一人一実験（一人一教具）を基本とすることで、主体的に実験・観察に取り組むことができるようにする。また、解決したい問題について、必要な器具や実験方法を考える時間を十分に確保する。導入の仕方を工夫し、問題意識や興味・関心を高める。

【令和５年度矢口東小学校授業改善推進プラン】

生活科における令和４年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

成果

・コロナ渦ではあったが感染症防止対策をとりながらも、地域に出て活動することができた。また、相手意識をもって行動することのよさに気付き、それを日常の学校生活の中に役立てることができるように創意・工夫できた。

・体験や活動を通して自分なりの気付きをすることはできていた。感染症対策を講じながら保護者や地域のみなさんへの表現の場を設定したり、他教科とも連携させたりして、思考と表現の一体化を目指しながら指導を行った。

・スタートカリキュラムに沿って、幼児教育と小学校教育と具体的な連携を図り、生活上必要な習慣や技能を身に付けさせていくことが課題として取り組んだ。

課題

・体験や活動を通して自分なりの気付きをすることはできているが、染症防止対策の観点から表現の場が限定的になってしまった。

・スタートカリキュラムに沿って取り組んだが、学校生活になかなか慣れない様子の児童が見られた。児童の実態を分析しながら、引き続き取り組んでいる。

生活科における観点別の分析

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
観点別結果の分析	・コロナ渦において、校外の人とのかかわりには制限があるが、身近な人々の思いや願いを想像し、自分にできることを考えることができている。 ・諸活動を通して、学校の自然や人とかかわり、その場所の良いところに気付くことができている。	・活動を通して考えたことや感じたことを観察カードにまとめたり、タブレットを活用して表現したりすることができた。 ・活動や体験について考える際、活動そのものを楽しみ、親しみをもちながら活動している。	・動植物の生長のような自然現に関心をもち、意欲と愛着をもって活動しようとしている。 ・相手に喜んでもらえるよう計画を立てたり、友達と一緒に楽しめる遊びを考えたりしようとしている。

授業改善のポイント

1　具体的な活動や体験を通して身近な人々、社会や自然とのかかわりに関心をもたせる。

→学校の人々や地域の人々と交流する活動を2年間にわたり継続的に取り入れる。人と触れ合うことや地域社会のよさ、自然の不思議さや面白さなどを実感できるような体験的活動を取り入れ、日常的に人や社会、自然に目を向けられるようにする。

2　表現活動を充実させ、その言語化を図る。

→活動や体験をその場限りで終わらせるのではなく、小学校低学年の発達特性を踏まえ、様々な表現方法を十分に活用した指導・支援を行う。さらにそれを適切な言語表現につなげるために、他教科と連携した指導を充実させる。またタブレットを活用した表現方法を取り入れる。

3　スタートカリキュラムに沿った小学校生活への適応を図る

→スタートカリキュラムを策定し、幼児教育と小学校教育と具体的な連携を図り、生活上必要な習慣や技能を身に付けさせていく。担任以外の人材も活用し、学校全体で取り組んでいく。

授業改善策

○知識・技能

身近な環境に主体的に関わる中で、生活に必要な習慣や技能を身に付けようとする態度につなげる。

○思考・判断・表現

・活動前後の伝え合いや話し合い活動を十分にさせることにより、体験活動と表現活動の一体化を図る。

・人と交流する機会を設け、相手に応じた活動や表現を工夫させる。

・タブレットを活用した表現方法を取り入れる。

○主体的に取り組む態度

・一人一人の思いや願いが達成できるようカード等の表現の方法を用意する。また、発表、話し合いの中からよい気付きを価値付け、各自の学びをたしかなものにすることにより、次の活動に生かして取り組もうとする態度につなげる。

○学校生活への適応を計画的に図るために

・スタートカリキュラムに沿って、幼児教育と小学校教育と具体的な連携を図り、生活上必要な習慣や技能を身に付けさせていく。

【令和５年度　矢口東小学校授業改善推進プラン】

音楽科における令和４年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

・実態に応じた基礎基本の系統的な指導により、表現することへの自信が付いてきている。グループ活動や学年合奏などを効果的に取り入れていく。
・表現と鑑賞の授業を関連付けることにより、音楽を形作っている要素や仕組みを理解して、表現に生かせるようになってきている。
・歌うこと、演奏することを好む児童が多い。高学年になるにつれて歌声が小さくなってき傾向があるので、発達段階に応じて響きのある声でハーモニーをつくったりパートを増やして合奏したりできるようにしていく。

音楽科における観点別の分析

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点別の分析	・基礎基本を大切にした鍵盤ハーモニカやリコーダーの練習に、熱心に取り組む児童が多い。 ・音楽を形づくっている要素やしくみを知って、曲を理解しようとする児童が増えてきている。	・音楽を形づくっている要素やしくみを根拠にして表現を工夫しようとする児童が増えてきている。 友達の想いを知って考えを広げたり深めたりできるように心がけている。	・器楽の学習に、意欲的に取り組む。 ・歌唱は楽しく歌うが、発表の場面でやや消極的になる。 ・楽曲のよさや面白さを感じ取って聴いている。 ・友達と協力し合ってすすんで音楽づくりをする。

授業改善のポイント

１　児童の実態に合わせた系統的な指導により、基礎的な知識・技能を定着させる。
→児童の実態に応じてねらいを明確にし、確実に習得できるようにしていく。

２　音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。
→曲の特徴に気付いたり、ふさわしい音楽表現を試したりしながら、思いや意図をもつ。
音楽を味わって聴けるようにする。

３　主体的・創造的に表現や鑑賞の活動に取り組む楽しさを実感することができるようにする。
→自ら音楽に関わっていくことができるようにする。

音楽科の授業改善策

１　児童の実態に合わせた系統的な指導により、基礎的な知識・技能を定着させる。
低　曲想と音楽の構造などとのかかわりに気付き、楽しく表現できるように技能を身に付けるようにする。姿勢、鑑賞時のマナー、鍵盤ハーモニカの取り扱いを身に付け、大切にする心情を育む。
中　曲想と音楽の構造などとのかかわりに気付き、表したい音楽表現ができるように技能を身に付けるようにする。姿勢、鑑賞時のマナー、リコーダーなどの楽器の取り扱いを身に付け、大切にする心情を育む。
高　曲想と音楽の構造などとのかかわりを理解し、表したい音楽表現ができるように技能を身に付けるようにする。姿勢、鑑賞時のマナー、リコーダーなどの楽器の取り扱いを身に付け、大切にする心情を育む。

２　音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。
低　表現したり聴いたりすることに、思いをもって楽しめるようにする。
中　音楽表現を考えて思いや意図をもち、曲や演奏の良さに気付いて聴くことができるようにする。
友達とのかかわりがもてるような活動を工夫する。
高　音楽表現を考えて思いや意図をもち、曲や演奏の良さを見出しながら聴くことができるようにする。
友達とのかかわりがもてるような活動や全員で作り上げていくような活動を工夫する。特に歌唱領域では、音楽朝会や行事などを通して、高学年として活躍できる場面を効果的に計画していく。

３　主体的・創造的に表現や鑑賞の活動に取り組む楽しさを実感することができるようにする。
低　個人の活動や友達との活動を通して、楽しく音楽に関わっていくことができるようにする。
中　共動し、すすんで音楽にかかわっていくことができるようにする。
高　共動し、主体的に音楽にかかわっていくことができるようにする。

【令和５年度　矢口東小学校授業改善推進プラン】

図画工作科における令和４年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

・実態に応じた題材や指導内容を工夫したことで、子どもたちは意欲的に造形活動に取り組むことができた。

・自分や友達の作品を鑑賞するなど授業の展開を工夫することで作品を楽しく見ることができた。

・材料、用具、作品などを丁寧に扱うことを継続的に指導し、互いの活動を尊重し安全に学習できる環境を保持できるようにする。

図画工作科における観点別の分析

	知識及び技能	思考力･判断力･表現力	学びに向かう人間性
観点別の分析	・様々な用具や工具、描画材等の使い方を工夫して、自分の思いにそって表現方法を考えている。 ・基礎的な用具の扱いや技法について、まだ習得が不十分な児童もいる。	・自分らしく発想したり構想をたてたりして、主体的に表現しようとしている。 ・自分の思いや考えを表すことに苦手意識をもち、なかなか発想できない児童もいる。	・材料や題材に対する興味関心をもち、すすんで創造的な造形活動に取り組もうとしている。 ・作品や身のまわりのものに関心をもつことができている児童もいるが、全体に説明した内容の理解が難しい児童もいる。

授業改善のポイント

１表現の意図に応じて、用具や材料を自分なりに工夫して使うことができるようにする。

→個別の活動を見る中で、必要に応じて用具・材料の指導・助言を行う。

２想像力を働かせて構想をしたり、自分らしく発想したりして、つくりだすことの楽しさを味わえるようにする。

→活動への想像力が広がるよう、子供の発言を取り入れた導入を行うようにする。また、自分の思いが表現できるよう、実態に合わせた材料や用具の準備を行う。

３身のまわりの材料に関心をもち、創造的な造形活動に対する意欲をもつことができるようにする。

→扱う材料の色や形・感触などのよさを知ったり、表現の可能性を感じたりすることができるよう題材や活動内容を工夫する。

図画工作科の授業改善策

〇知識および技能

低：手や体全体の感覚などを働かせて材料や用具を使い、創造的につくり、表すことができるようにする。

中：手や体全体の感覚などを十分に働かせて材料や用具を使い、創造的につくり、表すことができるようにする。

高：手や体全体の感覚などを十分に働かせて材料や用具を使い、表し方を工夫して創造的につくり、表すことができるようにする。

〇思考力・判断力・表現力

低：造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方について考え、楽しく発想や構想ができるようにする。

中：造形的なよさや面白さ、表したいこと、表し方について考え、豊かに発想や構想ができるようにする。

高：造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方について考え、創造的に発想や構想ができるようにする。

〇学びに向かう人間性

低：作り出す喜びを味わい、楽しく表現・鑑賞の活動に取り組むことができるようにする。

中：作り出す喜びを味わい、進んで表現・鑑賞の活動に取り組むことができるようにする。

高：作り出す喜びを味わい、主体的に表現・鑑賞の活動に取り組むことができるようにする。

【令和5年度　矢口東小学校　授業改善推進プラン】

体育科における令和4年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

・体力調査の結果（令和４年度）では、全体的に全校区平均・東京都平均よりも低い傾向にある。特に上体おこし、５０ｍ走、２０ｍシャトルラン、ソフトボール投げに課題のある学年が多かった。中休みや昼休みは、積極的に外遊びをして体を動かす児童が多い。しかし、学年によっても差があり、全体的な体力・運動能力の向上にはつながっていない。

・健康に関しては日頃からの指導により、知識を自分の生活と関連させて考える力は育ってきていて、手洗いうがい等を徹底して行うようになっている。

体育科における調査結果の分析

	運動領域	保健領域
低学年	○１年生は男女ともに区・都平均を上回っている。特に長座体前屈と立ち幅跳びは平均を大きく上回っている。女子のソフトボール投げに関しては平均を下回っている。 ○２年生は男女ともに区・都平均より低く、２０ｍシャトルラン、５０ｍ走、ソフトボール投げに課題がある。	
中学年	○３年生は男女ともには区・都平均より高い。特に長座体前屈、５０ｍ走が平均以上だが、握力、反復横跳び、２０ｍシャトルランは平均を下回る。 ○４年生は男女ともに区・都平均より低い。特に握力、５０ｍ走、ソフトボール投げは平均を下回る。一方、長座体前屈と立ち幅跳びは区・都平均を上回る。	生活・健康・体の発達についての理解、知識はあるので、実践できるように声をかけていく必要がある。
高学年	○５年生は男女ともに全体的に区・都平均より低い。特に長座体前屈、５０ｍ走、立ち幅跳び、ソフトボール投げが平均を下回る。 ○６年生は男子は区・都平均より低いが、女子は都平均とほぼ等しい。しかし、全国平均と比較すると、男子は握力以外、女子は反復横跳び以外の他種目で低く、特にソフトボール投げは男女共に課題である。	心の健康・病気・けがの原因・生活習慣病についての知識は身に付いているので、今の自分の心や体の状態について意識をさせていく。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

1. 児童がすすんで運動に取り組むために、めあてを示す。
   - 学習の最初にめあてを提示し、児童に見通しをもたせて取り組ませる。また、掲示物やワークシートも活用し、めあてを意識したり、意欲や技能の高まりを実感できるようにしたりする。
   - 場の設定を工夫し、児童が意欲的に取り組めるような環境作りを行う。また、めあてを達成できるように運動量を確保したり、活動の構成を工夫したりする。
2. 準備運動、予備運動の充実を図る。
   - 準備運動の中に、体つくりの要素を取り入れたり、鬼遊びを取り入れたりして体力の向上を図れるようにする。
3. 個々の技能を高めるだけではなく、チームワークを大切にする心を育てる。
   - 児童同士が励まし合い、教え合いながら運動に取り組めるようにグループ活動を取り入れる。
4. 健康･安全に関しての知識を実生活に生かせるようにする。
   - 早寝早起き朝ごはん週間を実施し、正しい生活習慣や運動習慣を身に付けさせる。
   - 毎日の積み重ねで健康が維持できていることを実感できるよう、自己の行動や生活について振り返る機会をつくる。

体育科の授業改善策

低学年: 体つくり運動や走の運動遊び・機械器具を使った運動遊びを充実させる。授業の最初に鬼遊びを取り入れる等、運動量を確保し、体力の向上を目指す。簡単なきまりのある活動を取り入れ、楽しみながら基本的な動きをしっかりと身に付けられるようにする。

中学年: 友達と協力しながら運動に取り組むことで、運動の特性に応じた技能を身に付けさせる。また、簡単なゲームなど少人数のチームで活動する場を設定し、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたりすることができるようにする。健康・安全に関しては、知識・理解を定着させ、実践していける力を養う。

高学年: 友達と協力しながら運動に取り組むことで、運動の特性に応じた技能を身に付ける。また、ボール運動や器械運動等を通して基本的な技能を身に付けつつ、友達同士で教え合う場も取り入れる。健康や安全については、知識・理解を定着させ、実践できるように、日常的な声かけを行い実生活と結び付けて考えさせる。

〇いろいろな運動に意欲的に取り組むために

・視聴覚教材や提示資料を使うなど、授業を工夫する。また、ワークシートを活用し、学習の見通しをもたせるだけでなく、意欲も高められるようにする。

・休み時間のクラス遊びや、外で遊ぶことを推奨する。また、縄跳び週間やマラソン週間を実施して、全校で運動に取り組む機会を設定する。

〇個々の技能を高め、チームワークを大切にする心を育てるために

・ペア学習やグループ学習を取り入れ、友達同士で積極的にアドバイスし合ったり、励まし合ったりできるようにする。その際、タブレットを使って、友達の動きを撮りあったり、見合ったりして、互いにアドバイスしていく。

〇健康への意欲を高める指導の充実を図るために

・早寝早起き朝ごはん月間を活用して、児童に規則正しい生活習慣が身に付くようにする。

・養護教諭や栄養士と連携し、衛生教育や食育の推進を図る。また、外部講師を活用し、保健指導や給食指導を継続的に行う。外部講師を活用して、心の発達や病気、がん教育、けがの予防、防止、薬物の危険性について意識の向上を図る。